

総務常任委員会

平成25年8月26日午前9時00分から第1会議室で開かれた。

1. 出席委員

◎木澤 正男	○小林 誠	中川 靖広
吉野 俊明	嶋田 善行	小野 隆雄
坂口 徹		
中西 議長		

2. 理事者出席者

町 長	小城 利重	副 町 長	池田 善紀
教 育 長	清水 建也	総 務 部 長	乾 善亮
総 務 課 長	黒崎 益範	同 課 長 補 佐	谷口 智子
企画財政課長	面卷 昭男	同 課 長 補 佐	松岡 洋右
同 課 長 補 佐	福居 哲也	税 務 課 長	加藤 惠三
同 課 長 補 佐	真弓 啓	会 計 管 理 者	西川 肇
監査委員書記	山崎 篤	教委総務課長	山崎 善之
生涯学習課長	佃田 眞規	同 課 長 補 佐	東浦 寿也
同 係 長	平田 政彦		

3. 会議の書記

議会事務局長	藤原 伸宏	同 係 長	大塚 美季
--------	-------	-------	-------

4. 審査事項

別紙の通り

開会（午前9時00分）

署名委員 坂口委員、小林委員

委員長

おはようございます。

それでは、全委員出席されておりますので、ただいまより総務常任委員会を開会し、本日の会議を開きます。

町長の挨拶をお受けいたします。 小城町長。

町 長

（ 町長挨拶 ）

委員長

それでは最初に、本委員会の会議録署名委員を私より指名いたします。

署名委員に、坂口委員、小林委員のお二人を指名いたします。お二人にはよろしく願いいたします。

本日予定しております審査案件は、お手元に配布しているとおりでございます。

初めに、1. 継続審査の（1）斑鳩町における歴史的史跡等の発掘調査、整備保存に関することについてを議題といたします。

理事者の報告を求めます。 佃田生涯学習課長。

生涯学習
課長

継続審査（1）斑鳩町における歴史的史跡等の発掘調査、整備保存に関することにつきまして、報告させていただきます。

まず、斑鳩町文化財活用センターの運営についてであります。

ただいま、夏季特別展といたしまして、世界文化遺産登録20周年記念事業、「法隆寺を未来にたくす―法隆寺昭和大修理展―」を、9月17日までを会期として開催しております。展示内容につきましては、創建以来、たびたび修理が行われてきた法隆寺の中でも、最も期間が長く大規模であった昭和大修理をテーマに、修理工事で解体された、保存されてきた金堂の古材や五重塔よりおろされた軒瓦などを展示しております。

また、この展示会の認識を深めていただくために、8月31日（土）には、法隆寺昭和大修理をよく知る日本建築史研究の第一人者であり、

当町の文化財保護審議会の会長を務めていただいております鈴木嘉吉氏に、「法隆寺昭和大修理について―古代技術の解明と復原―」という演題で記念講演を行っていただきます。

次に、斑鳩町文化財保護審議会について、6月14日に開催し、斑鳩神社の秋祭りや町内所在の文化財の基礎的調査などについてご審議いただきました。斑鳩神社の秋祭りにつきましては、太鼓台を使用した祭礼は江戸時代後期まで遡れても、祭礼自体の創始があきらかにできる資料が見つからないことから、新たな資料が出てきた場合には審議を再開することとなりました。また、今年度の町内所在の文化財の調査につきましては、五百井地区の大方家の古文書の基礎的な調査を進めることとなりました。

次に、こども考古学教室の開催であります。

毎回、多くの参加者を得て好評のこども勾玉づくり教室を、今年も小学生が参加しやすい夏休み期間中の8月11日に開催し、19組46名の方に参加いただきました。

続きまして、史跡中宮寺跡の整備についてであります。

史跡中宮寺跡整備検討委員会を、6月26日に開催し、これまで種々ご指導賜わる中で作成しました基本設計書の報告を行い、実施設計書の作成につきまして、史跡地東側の緑地広場については、現地形がわかるような整備手法が望ましいのではないかとといったことや、塔についても金堂と同様に、柱想定位置に礎石を配置したほうが遺構を理解しやすいのではないかとといったことなど、具体的な整備手法についてご指導を賜わったところであります。

現在は基本設計書を基に、検討委員会において賜わったご意見も参考にしながら、実施設計の作成に取り組んでいるところであります。

以上、斑鳩町における歴史的史跡等の発掘調査、整備保存に関することにつきましての報告であります。

委員長

説明が終わりましたので、質疑・ご意見があればお受けいたします。

ございませんか。よろしいですか。

(な し)

委員長

それでは、これをもって質疑を終結いたします。

継続審査については報告を受け、一定の審査を行ったということで終わります。

次に、２．９月定例会の付議予定議案についてを議題といたします。

９月定例会において提案が予定されている議案について、あらかじめ説明を受けることといたします。

(１)平成２５年度斑鳩町一般会計補正予算(第６号)について、理事者の説明を求めます。 面巻企画財政課長。

企画財政
課長

それでは、９月定例会の付議予定議案の(１)平成２５年度斑鳩町一般会計補正予算(第６号)につきまして、ご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、資料１をご覧くださいませでしょうか。

まず、今回の補正につきましては、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ４億１，４６６万９千円を追加し、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ８７億７，５０９万４千円とするものであります。

初めに、歳入予算の補正についてであります。

第９款地方特例交付金では、平成２５年度の減収補てん特例交付金交付額の決定により、１３８万３千円の増額補正をお願いしております。

次に、第１０款地方交付税では、平成２５年度の普通交付税の交付額の決定により、５，７４８万２千円の増額補正をお願いしております。

次に、第１４款国庫支出金では、土木費国庫補助金で、既存木造住宅に係る耐震診断支援事業及び耐震改修支援事業の実施見込件数が当初見込みを上回ることから、社会資本整備総合交付金６１万２千円の増額補正をお願いしております。

次に、第１５款県支出金では、農林水産業費補助金で、溜池の耐震性等の緊急一斉点検において、新たにいかるが溜池が採択される見込みから、震災対策農業水利施設整備事業費補助金２００万円の増額補正を、土木費県補助金では、土木費国庫補助金と同様の理由により、既存木造住宅耐震診断支援事業費補助金５万６千円、既存木造住宅耐震改修支援

事業費補助金で２５万円の増額補正をお願いしております。

次に、第１７款寄附金では、ふるさと納税として、また、生き生きふれあいメモリアルベンチにご寄附をいただいたことから、都市計画費寄附金で３万円、総務費寄附金で２２万円、農林水産業費寄附金で１万円、あわせて２６万円の増額補正をお願いしております。

次に、第１９款繰越金では、平成２４年度会計の決算余剰金の確定により、３億６，２７３万５千円の増額補正をお願いしております。

次に、第２０款諸収入では、平成２４年度の福祉医療費助成事業県補助金の精算により追加交付を受けることから、１０９万１千円の増額補正をお願いしております。

次に、第２１款町債では、臨時財政対策債の発行額の確定により、１，１２０万円の減額補正をお願いしております。

続きまして、歳出予算の補正についてであります。

資料の裏面をご覧くださいませでしょうか。

初めに、第２款総務費では、財政管理費の生き生きふれあいメモリアルベンチの設置で、生き生きふれあいメモリアルベンチにご寄附をいただいたことから、その設置費用１０万円の増額補正をお願いしております。

企画費では、文化振興基金の積立て、文化振興基金にいただいた寄附金の積立て１２万円の増額補正をお願いしております。

次に、第３款民生費では、医療対策費の福祉医療制度の運営で、平成２４年度の福祉医療費助成事業県補助金の精算に伴い超過交付分を返還することから、償還金２６万１千円の増額補正をお願いしております。障害福祉費では、障害福祉内部事務で、平成２４年度の障害者自立支援給付費国庫負担金等の精算に伴い超過交付分を返還することから、償還金２３９万７千円の増額補正をお願いしております。ふれあい交流センターいきいきの里管理運営事業費では、ふれあい交流センターいきいきの里の充実で、冬季にはセンター前の駐車場が混雑する場合があります、施設利用者の利便性の向上を図るため、第２駐車場への歩行者用通路を拡幅し、自動車の通行を可能とする改修を行ってまいりたいことから、その工事費２５１万３千円の増額補正をお願いしております。

次に、第5款農林水産業費では、土地改良事業費の震災対策農業水利施設の整備で、歳入で申し上げたとおり、新たにいかるが溜池が補助採択される見込みから、その所要額200万円の増額補正をお願いしております。

次に、第6款商工費では、商工業振興費の商工会に対する支援で、斑鳩町商工会において、地元の消費拡大と消費者の流出の防止を図ることを目的に10%の割増金をつけた斑鳩プレミアム商品券の発行を計画されているところでございます。この10%の割増金のうち、1%をプレミアム商品券発行補助金として支援してまいりたいことから、その所要額15万円の増額補正をお願いしております。

次に、第7款土木費では、都市計画総務費の既存木造住宅耐震診断の支援及び耐震改修の支援事業で、当初見込みを上回る要望がございましたことから、耐震診断の支援で5件分22万5千円、耐震改修の支援で2件分100万円の増額補正をお願いしております。

最後に、第12款予備費では、今回の補正から生じました財源4億590万3千円を留保することといたしております。

以上で、平成25年度斑鳩町一般会計補正予算（第6号）につきましてのご説明とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

委員長 説明が終わりました。なお、この一般会計補正予算については、既に行われました建設水道常任委員会、厚生常任委員会でも、所管の分野については、報告がされています。

何かお聞きになりたいことがあればお受けしたいと思います。

中川委員。

中川委員 補正についてじゃないんですけどね、メモリアルベンチの設置で10万円の予算の補正してあるねんけど、これは10万円という予算であって、10万円で発注するということではないねんな。

企画財政課長 メモリアルベンチのご寄付につきましては、10万円のご寄付をいただくことになっております。その10万円をもちまして、設置に関する

費用、ベンチでございましたり、工事費を含めまして、10万円で設置をさせていただくと、そういうふうになっているところでございます。以上です。

委員長 小野委員。

小野委員 これはどうなのかなと思うんですがね。今、委員長から、各担当常任委員会で説明を一応しているということで。これが本会議から総務委員会、この委員会に付託されるということで、ここで決着をつけるということで、このやり方もどうなんかなということも常に、今までから考えていたことなんですがね。その中で特に、今回、私は建水の委員でもありますけど、この商工会に対する支援というところで、商品券発行の補助金、この担当の説明からと、今、財政の課長からの説明とで、少しニュアンスが違うんかなとかね、そんな感じがしたんです。それと、特に、後で気がつくということないんですが、同僚委員が、今、商工会の会員がいくらぐらいいて、その中でこの商品券の事業をする企業というんですか、会員がどれぐらいだと。もうわずかな件数しかなかったから、そこから追求してはいかなかったんけどもね。担当というんですか、補助金出すことに対してはどうのこうのということもありますんで、やはりもう少しその商工会の中で、会員の中で、多数の会員がこういうことで消費拡大、それから消費者が逃げないようにということでこの事業をやろうと、その建水の委員会では、それを皆でやろうということになって県のほうへ手を挙げていったと、そのような話を聞いていたんですけどもね。それで採択になったので、町としても今、財政課長の言われるように、その商品券の発行する費用、1%にあたるんですか、それが15万だと。これを補正予算ということで、議会の議決を求めてきているんですけども。この建水の時にも私はちょっと言いましたけどもね。以前にもこういうことで活性化を図っていこうとしたけど、やはりうまくいかなくなって、もう中止されているという経緯もあるしね。それと、会員の中でごくわずかなんです。理事の数よりも少ない者しか、この商品券の事業をやろうとしている、申し入れしている人数がないんですよ

ね。こんなことでええのかなと。ここに担当課長もいてないからね。こんなことでどうなんかなと。当日は町長も出張しておられましたけどもね。そのごくわずかの人が、会員さんが、やはり活性化図るためにと、この志は、私はもう良としてるし、積極的にやってもらいたい。そして、以前の失敗っていうんですか、あまり効果なかったことを反省した上で、いろいろチェックをかけた上で手を挙げられたんか。それにしてみたら、これに参加するといっって名乗りをあげてきている会員さんといったらごくわずかな数字なんですよね。ちょっと控えてないからわからんけど。それで、県のほうからもそうして事業やってくれということを言われているからやりますねんというのは、ちょっと私はどうかなという疑問を持っています。だから、そのことが、これが付託されたときに私はどういう発言をしていったらいいのかまだ迷っとるんやけど、どういう態度取ってええのか迷っとるんやけどね。このことについて、町長どうですか。以前、このことに、町長に大分私はお願いもしたり、どう言うんですかね、もう少し補助金を継続して出してやってほしいというような要望もしていった経緯もありますのでね。だけどやはり全然もう効果が現れてこないということで断念したと。そういうことで、また今回、あれから何年かちょっとわからないですけどね、して、また出してくる。その説明を受けた時には、私は、あくまでも商工会の中でそういう盛り上がりがあって、それで総代会なりそういうものでやろうということでされたんやったら、もっとこの事業をやるっていう、加盟っていうんですかね、そのの申し入れがあって当たり前やと思うんですね。その点、副町長には聞きましたけどもね。

委員長

小城町長。

町 長

小野議員のご心配はよくわかってます。ただ、前の時は、共通商品券というのは、これはもう県が補助して町がやると。もう県は1年間ということですから、後また陳情されて、町としては続きましたけども。問題は、500円の券を、520円程かかるんです、経費が。それはもう頭から、全然、そら補助金ある場合はよろしいけども。ただ、このプレ

ミアム商品券というのは、今、県も進めているように、南和地域で旅館、ホテルとかそういうところで、1万円で1万なんぼ泊まりますよということで、県が補助しながらですね、プレミアム商品券、商工会等の活性化と。これも私はやはり、商工会の中で皆さん方がこういうことをしていこうという、奈良県商工連合会での話し合いの中でされてきたと思ってますし。当初は、この7月の商工まつりに間に合うようにするというものでしたけども、これが間に合わなくて、10月の25、6日ということは、まだ確定はしてませんが、そういうことでチラシにも出てましたようにですね。

いずれにいたしましても、こういう形でですね、仮にチケットを買っていただいて、そしてまた買い物に行くというのは、私はひとつのこの町内としての業績は上がっていくのではないかと。やっぱり地元に落ちる金は大きいと思っておりますし、われわれも町職員、あるいはまたそういう皆さん方が努力をしてですね、町内の活性化ということをひとつ訴えていきたいと思っております。

小野委員

実際ね、こ前のときにも言ってたんですよ。そういう具合にポジティブにやっていうと、活動されることに対しては、先ほども言いましたけど、やっぱり前のことを反省してやっていかれるのかと。そして今、町長も言うように、これ10%のプレミアが付いているということで、消費者にとってみても魅力あるものだ、そのように思っておったんですが、加盟店として名乗りをあげているのが、わずか10何件だったと。

13件。理事の数より少ないんです。担当課長ね、また総代会とかでいろいろPRというのか、そういうのをしてふやしていかれると思いますという、そういうあれしかこちらは答弁できないと思うけど。これ、15万、やはり税金ですからね。全体の人の出費ですからね。そして活性化図ろうと努力されるんだったら、もっと加盟店をふやしてもらわなければ利用できないと思うんですよ。今、町長がおっしゃるように、旅館とかそういうことで施設でというような、そういう大口で消費できるところが私は少ないのかなと。その14件がどんな方なんかも聞いてませんが、そこらもっとひと工夫もふた工夫も商工会にしていっても

らいたいと、そういう思いを私は持っていますのでね。15万を私らの税金から使っていくのやから、商工会全体ももっと活性化図ってもらいたいなと、そのように思ってるんで。またそれは本会議から付託された時にも、そういうことも申し上げていかなくてはいけないかなと思ってますので、よろしくお願いしときます。

委員長

他にございませんか。

(な し)

委員長

そうしましたら、以上、9月定例会に付議が予定されている議案については、あらかじめ説明を受けたということで終わります。

次に、3. 各課報告事項についてを議題といたします。

まず初めに、(1) 斑鳩町消防施設整備事業等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について、理事者の報告を求めます。 黒崎総務課長。

総務課長

それでは、各課報告事項(1) 斑鳩町消防施設整備事業等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について、ご説明をさせていただきます。

お手元にお配りをいたしております資料の2の最終ページの要旨によりご説明をさしあげたいと存じます。恐れ入りますが、資料2の最終ページの要旨をご覧ください。

斑鳩町消防施設整備事業等補助金交付要綱の一部を改正する要綱(要旨)

この要綱の適用を受ける消防施設整備事業を明確にするとともに、補助金交付申請等の手続きについて整理し明確にするための改正、及び自衛消防団の定義とそれに対する補助金の申請手続きを明確にする改正を行うものでございます。

1 主な改正内容 (1) 消防施設整備事業の明確化(第2条関係)についてでございますが、可搬式消防ポンプ一式購入事業が補助対象事業となることを明記するとともに、防火水槽の修理、改良事業については、すべて町で行うということから、補助対象事業から除外するものでござ

います。

次に、（２）補助金交付基準の明確化（第３条関係）についてであります。可搬式消防ポンプ一式購入事業に対する補助金交付基準を３分の２と規定するものでございます。

ここで、恐れ入りますが、新旧対照表の第２条をご覧ください。

可搬式消防ポンプ一式購入事業に対する補助金につきましては、当該要綱の改正前、旧の要綱では、第２条第６号に、その他町長が特に必要と認める事業として規定し、旧要綱第３条第４号において、補助率を３分の２と適用しておりましたが、新要綱第２条第５号において、可搬式消防ポンプ一式購入事業を明記し、新要綱第３条３号において、補助率３分の２とするものでございます。

再度、恐れ入りますが、要旨のほうをご覧ください。

次に、（３）補助金交付申請等手続きの整理、明文化（第４条、第８条、第９条関係）についてでございますが、最近は消防器具の盗難や破損といった場合が多くあり、至急に対応しなければならないことから、補助金交付申請等の手続きについて整理するとともに、各様式についても明記するものでございます。

再度、申し訳ございませんが、新旧対照表の第４条のほうをご覧くださいと存じます。

第２条に掲げる消防施設整備事業の補助申請につきましては、旧要綱では、事業予定の前年の１０月末までに町に提出し、これが、旧の要綱第４条第１項関係でございます。そして、町は翌年４月に事業承認、旧要綱第４条第２項関係でございます。５月末までに本申請、旧要綱第５条の関係でございます。町からの補助指令後、これは、旧要綱第６条でございますが、事業実施となっておりましたが、盗難や破損に至急に対応できるよう、新要綱の４条、８条、９条を改正していくものでございます。再度、恐れ入りますが、要旨のほうに戻っていただきけますでしょうか。

次に、（４）自衛消防団の定義とそれに対する補助金の申請手続の明文化、第１０条、第１１条関係についてでございますが、自衛消防団の定義を明文化し、それに対する機械器具の整備補助金の申請手続きにつ

いて規定するものでございます。

申し訳ございませんが、新旧対照表の10条のほうをご覧いただきたいと、お願いします。

新旧対照表でございますが、第10条に自衛消防団の定義として、地域の消防活動を行うために当該地域の住民で組織された団体に消防組組法第9条に規定する消防団以外のもので、可搬式消防ポンプを所有する団体（以下、自衛消防団という。）というふうに規定をしております。そしてまた、当該団体に対しまして、機械器具の整備費として、毎年度5万円を交付する旨規定をいたしております。

改めまして、要旨のほうに戻っていただきたいと思います。

次に、2の施行期日（付則関係）についてでございますが、（1）この要綱は、平成25年9月1日から施行するものでございます。

次に、（2）経過措置についてでございますが、この要綱による改正後の斑鳩町消防施設整備事業等補助金交付要綱の規定は、施行日以後に補助金の交付申請があった事業から適用し、施行日前の補助金の交付申請があった事業については、なお従前の例によるというふうにしております。

以上、斑鳩町消防施設整備事業等補助金交付要綱の一部を改正する要綱についてのご説明とさせていただきます。よろしく願いをいたします。

委員長 報告が終わりましたので、何かお聞きになりたいことがあればお受けいたします。 中川委員。

中川委員 第10条で機械器具の整備費として毎年度5万円を交付するものとするという説明がありましてんけど、これは整備の内容によらず毎年5万円を交付する。5万円かかろうが、かからなくても。

総務課長 可搬式消防ポンプの維持管理につきましての費用として毎年5万円、だいたい5万円程度必要であるということから、5万円を毎年交付させていただくものでございます。

中川委員 実際、3万かかったら3万、4万かかったら4万、5万円を限度としてかかった分っていうことにしたらええの違いますの。4万円しかかかってないのに5万円の整備費というのはおかしいですやろ。

総務課長 整備の費用、燃料代等も含んでおるんですけども、そういったものとか、点検に要する費用、そしてまた研修とかですね、訓練に要する費用もこちらのほうで使用願っているところでございます。

中川委員 それ、研修の費用は、機械器具の整備費としてではないですやろ。その研修費用、ここにあてがったらおかしいと思うで。

総務課長 研修というふうに申し上げたんですけども、実際は機械の操作とかですね、そういったものの訓練ということで、ご理解願いたいというふうに思います。

中川委員 まあせやから、その、ほんなら訓練等の費用も入れてでもいいけど、5万円かからなかったも5万円払うのはおかしいのと違いますかということ私言ってるねんから、きっちり5万円かかるってそんなんわかりませんやろ、そんなもん。機具の整備なんか、その整備に関してどれだけの整備せないかんか、左右、いろいろありますやん。ちょっとした整備で使えるものもあつたら、かなり手加えなあかんものもあるし、だからその5万円を上限にしてでっせ、かかった分を補助金交付するでいいのと違いますの。5万円を限度にして交付すると。3万円しかかかってなかったら3万円でええのと違いますの。3万円しかかかってないのに、5万円渡したらおかしいですやろ、残つたら。

委員長 小城町長。

町 長 中川委員のおっしゃるのはごもっともでございますけども、結局機械整備というのは、悪なったらそれで修理したらそんだけの費用がありま

すけども、毎月点検をしたら、やっぱりいろんな関係で油を補充せないかんとか、いろんな関係出てきますんで、そういうのは修理には入ってこないと思いますので。当然中川委員がおっしゃっていただくのがごもつともな話で、結局それだけの部品を修理したという請求書をもったら、町としてそれは払ったらええわけですけども、それ以外に、やっぱりこういう機械ですから、毎月1回は点検をしていかなかったら、やっぱり油がにじんでしまうとかいろんな関係で、すぐ稼動していかんといけませんので、そういうことも含めての話ということで、ひとつご了解をしてほしいと思います。

中川委員 せやから所有されている団体がね、5万円以上かかってんねんと、6万円、7万円かかってんねんけど、町としては5万円だけ出してんねんと、まだ足らんぐらいやというのやったらわかるねんけどもね。せやからそういう燃料代もなにもかも入れて、5万円で余る場合があったらおかしいん違いますかという話やねんけどね。

委員長 乾総務部長。

総務部長 一応基準としては、例年どおりずっと5万円という形で、今まで、これまで支給してまいりましたので、今、今回の要綱の改正については、それを踏襲するような形では、改正はしていかないということなんですけれども、当然、その年度によっては、5万円いかない年もあるかと思いますが。逆に、大きな修理をしますと、例えば10万円とか、15万円とかかかる場合もございますので、そういうようなこともございますので、その分をまたそれに充てていただくという形で、繰越金という形になるかと思いますが、それをまた今度、大きな修理に充てていただくような形で、残していつていただくという形の考え方を町としてはさせていただいているという状況でございますので、ご理解いただきたいと思います。

中川委員 その今、部長の説明で大きな修理が出たときのためにも基金として積

み立てるっていうことで理解してほしいという説明やねんけども、大きな修理っていうのは補助金出えへんのかな。それはもう持ってる所有者が、所有している団体が、その大きな修理も全部せなあかんのかな。

総務部長　今のところはそういう形でお願いをしたいということで。購入の際には当然補助は出しておりますけれども、毎年の整備と、あとまた大きな修理も出てくるかと思いますので、それはその費用を充てていただくという考え方をお願いしたいというふうに思います。

中川委員　他の委員さんも言いたいやろうさかい代わるわ。

委員長　そしたら他に、ございませんか。　小野委員。

小野委員　もう、こんな苦しいことやめときや、はっきり言って。要綱、今、部長言ってるやろ。要綱見直すということで、前の購入に対してのことで大分補助金、この要綱のほかの部分でいろいろ言いました。もちろんこれもあったんですよ。この5万円ということでね。今までからの経緯というのはわかってますやん。今までの自衛消防団、自警団という名のもとで皆、そうして地域の防災に活躍してもらった人、その方たちのところは、古くなったそういう可搬式のを備え付けているんです。だから割と修理もかかってくるんやと。あの時も言おうと思った。さらを入れたらそのメーカーからのメンテナンスとかそういうのは期間もあるはずやからね、いらないやろうと。あの時の補正予算の時にも言おうと思ったんやけど。だから、要綱をこうして前向きに改めていくんだからね、旧態然としたような、このような書き方を一切やめてほしいわ、はっきり言って。だから説明に困るんや。これ、整備費にしてる。具体的に、せやから今までのほかの自衛消防団にもそういう具合にして、5万円というのを内容も把握できずに、なにもする必要もなかった。私らの政務調査費も、きちっと出さなければいけないから、もう面倒くさいから取らんとこうとしているんです。だからそこらを考えて、何箇所今あるんか知らんけど、5万円かけるその何箇所、それ皆、税金使っているんで

すよ。だからせめてね、その5万円は用意しますと。そこでこれこれ、油代にはなんぼ、それから点検月1回とか、何回やりましたと、そういう明細が上がってきて精算という形を取るんですよ。その精算もなしで、基金として積み立ててもらえたらいいと思います。いいと思いますって言うだけです、そういう制度になっていないんです、これは。言い逃ればかりしているやん、そんなもんね。だからこれはしっかりとしたね、5万円、交付するもの、5万円を限度という、交付するものとする。ただし、それにいった費用、機械器具の整備費ということで、これだけの項目でどれぐらいいりましたと、それらを提出してもらってから出すもので、これは最初から5万円渡すということと一緒にすよ。その使い道は知らんと。こんな要綱、今また同じようにつけてくるというのはね、こんなん、もう1回やり直してくれなあかんわ、こんなもの。今、同僚委員はここで、監査委員でもあるからシビアにつてね。誰でも思うわ、自分の金やったら。こんなもん使ってもらったら困るよ。その団体へのなんかお礼ですよって言ってばあつと渡しても一緒ですよ。せっかく要綱見直しをやりますと、他のこともあったし。臨時議会で私は、この要綱どおりにやってないやんかと、なんでやねんということていろいろやった。こういうことももちろん含めて、私は思いを持って言っているんですよ。それが直ってないし、今度、明文化してきている。こんなばかげたことあらへん。

それでね、私はね、あの時にこの要綱っていうのがあるんやから、それにのっとってやってもらいたい。そしたら、緊急を要するんやと、5月の臨時会、委員会での議論も省略しなきゃいけないという、39条の3項によって委員会の付託を省略するということを会議で決めていかなければいけない、議論ができないような状態のときになぜ補正予算を出してくるんやということで、私は大分突っかかっていったんです。もうそんなもの用意してあるものやからしゃあないということで、私はあれしたけども、その時点では一応、この要綱の見直しもやりますよと。それでこれを期待していたら、またこれ、こんなこともそのまま出してくるしね。それでね、私は一番ね、要綱があるんやから、要綱にのっとって皆肅々とやってもらったら、そんで何も文句言わないです。だ

から、あの時点でもなんにも、その前年度からいろいろそういうことが地元であるんだったら、そのことを10月ですか、この要綱に基づいて、その前に出してもらったらよろしいんです。それがまだ決まらない。そしたら来年度ですと。可搬式、その時には自衛消防団の設立と可搬式ポンプというものは一体化できてなかったんですよ。何もどこにも自衛消防団を設立するのに可搬式ポンプが必要だと、どこにも明文化してなかったら、今、これ明文化してきたんです。それは可搬式ポンプを持ってもらうことによって、5万円の、まあお礼がありますよという、交付金がありますよというようなね、そういう流れの中での臨時会の時に、それを緊急性があるんやとかなんやわけのわからんこと言って出してきて、まあ、可決しましたよ。当然地元のためやと思って、私も賛成も反対もしませんでしたけどもね。そのことを教訓に、しっかりと要綱を改正してくださいということで、改正しますということも、私としても考えていたからそのままにしててんけど、同じことやってんねん。どんな考えしてんねん、要綱っていうものに対して。だから、その要綱に基づいて次回で。あの時も言ったけど、私の自治会でも、ホースがもう10何年前のやつやっていうのがわかって、そうしたら自分の時にやろうとしたら、もう10月過ぎていた。そういうことやから次の会長、執行部に対して、こういうことですから申し入れしておきますんで、予算組んでくださいと、そうしてきているんですよ。皆、要綱守ってきているんですよ。だけどそうして守らなくてもいけるような要綱なんて、もう要綱じゃないんですよ、そんなもん。ましてこの、そんな機械整備費として5万円。今の委員さんの質問、監査委員でもある委員さんは、これ、適確に言ってはるんや。それをなんでそんなあれやと、基金として積み立てるんやと。それ明文化しておいてください、それやったら。きちっと5万円支出したんやったら5万円までの金がいったんかと。それがいらなかったら、これは積み立ててます、将来に備えてますという、それぐらいのことしてもらわな困るで。まあ、私が言いたいのはそこじゃないんですけど、今みたいな答弁されているんやったら、私はもうこの要綱、なんでこんなん作るんやと。

それでね、私が一番、あの時も言ったけど、この要綱の中で、2条で

すか、2条には整理されたということで、筒先とか、そういう、開栓キーとかはつきりした名前に整理されたと。それと今の可搬式消防ポンプ一式購入事業と、今までなかった、今までこちらで、全部町でしてことをなくして入れたと。そしてそのね、確かに要綱とか条文にはその他町長が特に必要と認める事業ということでね、これはまあ明記しておかなければ、これ以外のものはできませんとなってしまいうから、これはまあ言ったらクッションのために入れてあるんですよ。前回の時にもこれを適用しましたと、必要と認めたと。だからそれでしましたということで。それなら町長が必要と認めると、特に必要と認めるって、そのラインどんなものやねんということね、それを私は今度の新しい要綱に浮かび上がらせてくれるのかなと思っていたんです。同じことですよ、これ。

それとかね、これ特にね、自治会の中にある、なんですかあれは、先ほど課長がちょっと触れましたけど、盗難とかあるって、どこでやったかな、ので、緊急を要する、盗難があった場合はすぐに、要綱のその規定をじゃなくて、しなければいけない、それはわかるんですがね。盗難っていうか、どう言うのかな、鍵をかけていたらいかんと。緊急の場合だめやとかいうことで、施錠してないところもたくさんあるんです。だけど、あれは一応施錠しておくべきだと思うんです。それは、西和の消防署からもそういうアドバイスというのを受けているんです。そしたら緊急の場合どうするんやといたら、普通はそれをばあんと潰していく。もちろん消防団とか西消なんかがそれを使おうとした場合はね。それでね、あのホースも、ホースとかノズルとかそんなん、私あれ、設置、どうなんかなって。今もう1回考え直してもいいのと違うかなと。ものすごい盗難も多いらしいよね。だから、それは補助金あるからそうして備え付けてあるものということになってくるんやけども。これも大災害の時に使えるんかなと。普通の火災の時にはまず使わないと、私は思っています。西消が来て、どうしても、じきに地元の消防団も来てもらって、あのノズルとかホースとか使ったという記憶が私はあまりないんです。初期に使えるやろうということもあるんやけど、西和消防もすぐに来ますし、なかなか一般の方には使うということは危険なものだと思います。皆やっぱり消防団の方も、もちろん消防署の職員も訓練を受けてますか

ら、その水圧というものに対して考え方、それらとか、ものについては、やはりちょっとでも訓練受けた者しか、初めての者は、消火器だけでも使うのは初めての者にはなかなか難しいと思います。あの消防の入ってるホースとかそれらは、私は無理ではないのかなと思ってます。だから、その開け方もやはりいろいろ検討してもらいたいなと、そのように思います。

だからこの要綱について、そこらの点はどういう考えを持って改正をされたのか、されている。これは要綱ですから、議会にも報告だけやと思うねんけどね。これではまたいろいろ、どう言うんですか、問題も生じてくる。曖昧さっていうのかね、それがあると思います。どうなんですかね。

委員長

池田副町長。

副町長

まず第1点目であります。ホース格納庫、スタンドパイプ、筒先とか、あまり使わないのではないかとのご意見でございました。追手の火災でも使われましたし、興留の火災でも使っておられますし、北庄の火災でも、全て初期でやっておられます。これが斑鳩町内で消火栓、格納庫いりません、なかったとなったら、これはそういう火災に使っておられますので、非常に、町としてどうあるべきかというのは、非常に、全国的にたたかれると思いますので、これは非常に、必要であると考えております。

次、第2点目、今回の要綱の改正であります。この前、6月議会でいろいろご質問、ご指摘をいただきました。その中であいまいな点がございました。まず、可搬式消防ポンプの中に要綱が入ってなかった、これについてはまず改正しようということで、改正をさせていただきました。それとやはりこういう緊急的な消火栓について、前年度に、10月までにこれはもう申請しなさいよというのは、あくまでも、あまりにも、役場は予算計上をするためにそういうことをやっておったけども、それについては申請しなくてもやはり町が調査して行って、来年これぐらいありますよと、大まかな予算を確保して行って、それを予算計上していく

と。それであと緊急的なものについては補正で対応させていただくと、これはもう危機管理上必要でありますので、そういう要綱改正にさせていただきました。そういう趣旨でさせていただきました。

もう1点目、5万円の分ございましたね、自衛消防団。これはもう以前から、新旧対照表を見ていただいたらわかりますように、もう簡単に、町長が認めた自衛消防団、毎年予算の範囲内で補助金を交付しますとなっております。これはなんぼも規定してないし、予算決算書も提出を求めてませんでした。ところがそれではということで、あまりにも渡しきりであるということで、第10条でやはりこういう自衛消防団を規定させていただきました、毎年度5万円と、ここでは5万円と規定させていただいて、きっちりと予算決算と事業計画書、それと事業報告書を提出させていただくようにはさせていただいております。ただ、今、中川委員もご指摘のように、補助金を出して、渡しきりで例えば予算の範囲内というご意見もございました。これについて、役場、今まで予算決算取っておりませんでした。それについてやはり、いろんな21団体ありますんで、ここらはやはり地域のために可搬式ポンプやって、いろいろ訓練もしていただいて、いざという時には町民のために役立つようにしていただいてありますんで、それについて、少し、どれぐらいの予算になっておるか、決算になっておるか、そしてまた意向も調査させていただきまして、これについては、これを上限にするかうんぬんについては、それから結論出させていただきたいと思います。やはり、今現在いろいろ地域のためにそうして活動していただいておりますんで、その方の意見もお聞きして進めたいと思いますんで、ご理解いただきたいと思います。

小野委員 よくわかりました。私が今まで長々といろいろしゃべったことが、ちょっと認識の違いやということがよくわかりました。

これをきちっと、私は必ず守ってほしい。今までの20何団体ですか、こういうことは今まで全然考えてなかった。だから、その2項のほうでこういうのがありますということ、しっかり認識してもらいたいと思います。だから、そんなもの出せるかと言われてね、もし、そういうこと

になるんやったら、私は差し止めてもらいたい。それだけきちっとやっ
てください。特に今までの団体の人らにそれらの認識してもらってくだ
さい。この要綱どおり、もう特別の場合ですからとかね、今までからそ
ういうものしてきたからということで見過ごすようなことを、私はして
もらったら困る。

これは前年度の決算書といったから、いつ、議会としてはチェックで
きるんかな。報告はしてもらわれへんか、決算、この総務委員会で聞か
せてもらったらええんかな、それ提出できてあるかどうか。

副町長 それはしていただいたら。

小野委員 していただいたらと。私はよく忘れるからね、これはきちっとやっぱ
り報告で、各その団体ですか、そこから皆決算書が上がってきている、
それはこの総務委員会なり決算委員会にも出してもらいたい、そのよう
に思いますね、そこまではできないですか。

副町長 今の決算委員会には無理だとは思いますが。9月1日施行で。もし、毎
年出せというのだったら、これはもういろんな団体ありますんで、全て
の団体、決算書出てきます。これ決算書と予算書出てきましたら、監査
委員さんのほうでは必ず全補助団体の決算書提出させていただいており
ますんで、それと同じ扱いになっていって、そちらへ出てきますんで、
それをまたご覧いただきたいと思います。

小野委員 そしたら先ほど総務部長がね、整備費としてね、まあ基金として貯め
られるところもあるでしょうとかいう、そのことはオーケーなのか、や
っぱり違うんか、どっちなんですか。

副町長 この団体にかかわらず、他の団体でもございますわね。例えばAとい
う団体が例えば10万円補助金やってますけど、会員さんからの収入も
ございまして、全体としては余剰金出て、その余剰金で繰越しておられ
る方もおられます。それをまた何年か後において、いろんな、大きな1

0周年の大会したときに使うように貯めておられる方もございますんで、それと同じような考え方で進めていけばと考えております。

委員長 中西議長。

議長 今のこの整備というのはね、どの程度の範囲を整備と思っではるのか。というのはね、私のほうの東里の自治会でしたら、毎月役員さんが出ていって、機械の整備ということで、ポンプを出して、防火水槽に持って行って、実際に放水して、それでまた終わったらそれなおして、ホースを干して、また片付けてっていう作業してもらってるわけです。だから、その作業の内容から見ていったら、この5万円という補助金は別にそんなに高いようにはないと思うんですけどね。その町のほうの考え方でっせ。整備というのはどこまで見てはるのか。

委員長 乾総務部長。

総務部長 当然そういった機械の点検ということもございますし、そういった運営ですね、点検にかかる運営ということも含めて、全体として機械の整備ということで考えていただいたらいいかと思しますので。ただ単に機械の修理とかだけではなくて、そういった点検にかかる運営も含めてということでご理解いただけたらと。

委員長 中川委員。

中川委員 それやったらね、自衛消防団っていいまんのか、これ。そこに5万円の補助金出すにしたらええねん。機械の整備や点検に5万円っていう名目にするさかいこういう話になってしまうねん。どうでっか、副町長。

委員長 副町長。

副町長 ご指摘のとおりです。自主防災組織では運営費になっておるんですわ。

そのとおりなんです。今までこの要綱の中で、新旧対照表見ていただいて。そのまま整備ってなっておりまして、そのまま引き継いでそのまま横へ横滑りさせたことから、運用としては今までどおりこういう運用しておりましたけども、やはり運営費として5万円を出すと。その方が分かりやすく、その運営費の中には機械の修理も点検も含みますよと。そのほうが理解は、住民の方に得やすいというように思いますので、それはもうそのように。今、もう案でございますので、それはもう改正をさせていただくと。そしたら皆さんに分かりやすいと思いますので。自衛消防団の運営費として。そのように変えさせていただきます。

委員長

小野委員。

小野委員

もうそのとおりだと。だから、もともとそういうややこしいことでやってきていたから、可搬式のポンプが入れなあかんとか、なんやややこしいことになってるんです。だから、その出発がね、部長が言っている、以前からこういうものでありましたからこうやという、そんなことでな、やっぱりいろんなこういう要綱とか考えていくのは、改正していくのは、意味ないわけや。だからそうして時代にあった形をずっとやっていってもうて、今、議長が発言してもらって、そのとおりやと思うで。それから同僚委員も言っているけどね。そのとおり改正してもらわなあかんで。そしたら今までの、この議論するのはいいことやけどな。これから皆お願いしたいのは、そういう要綱とか条例の改正する時には、以前からこれやったからということで固定させてもらったら困るということ。何ぼでも追及していくという。そのことがやはり発展していくことになっていくし、やはり住民の皆さんにも理解してもらいたいんです。ぜひともそれはやってもらいたい。

委員長

今、委員さんからそれぞれ意見出ましたけども、1つは補助金の使用の実態が、これまでされてなかったという点については、町のほうも今後つかめるようにしていくというふうにおっしゃっていただいていますんで、その点についてはまたしっかりやっていただきたいという点と、今、

指摘がありました、運用の補助金にするという点についての改正ですね、この点については、どうなんですか、次回の委員会を出して。

今回この案として出していただけてますけども、今、意見いただいた分で町のほうでまとめていただいて、次回の委員会、出していただけるんですかね。 池田副町長。

副町長

もう、今、これはすぐ要綱の改正は、今、ご意見。町としては、この案を議会に提出させていただいて、やはり町の考えもありますし、どうしても固定的な観念になります。これは町ではなくて、やっぱりいろいろ団体としてあります。それを防ぐために、いろいろまず案を出して、議員皆様方の意見を聞かさせていただいて、より良い要綱にしていこうということで出させていただいておりますので、これを皆さんの意見を聞いて、これは住民にわかりやすいとなったら、それは訂正させていただきます。今申し上げましたように、この項につきましては、自衛消防団に対しての運営費として5万円をお支払いすると、こういう要綱にさせていただきますと。それを、今、期限。その要綱にさせていただきますと。それについてはまた次回も出して、9月1日施行になっておりますので、そこはもう訂正した分について各議員さんにお配りするということができますけども、できましたら各委員に、今申し上げましたところについては文言を変えてお配りしたいと、もしそれでよければそれでお願いしたいと、ということでお願いしたいと思います。

委員長

中川委員。

中川委員

今、副町長、9月1日施行やからもう、変更した分、改正した分各議員さんにお配りするいうやつやけど、施行日は変えられへんの。できたら委員会でね、改めたやつ出してもらって。

副町長

そしたらもう次回の委員会で、施行日を10月1日にして、改めた分を出させていただくと、このようにさせていただきたいと思います。

委員長	やはり公金の運用ということになりますと、きちっとした確認をもって進めていきたいという点と、やっぱり実態に即したものにしていこうという点があると思いますんで、住民の皆さんにも分かりやすいような形できちっと委員会でも確認をしていきたいと思いますんで、その点についてはよろしく願いしておきます。 嶋田委員。
嶋田委員	1つだけ。その運営費というのはわかるんですけども、機械・器具の整備を含めた運営費ということでやっていただきたいと思います。というのが、そうしたら機械が壊れた、器具が壊れたときの修理費、補助金出るのかと、そういう問題も出てこようかと思いますのでね、ただ単なる運営費であれば。せやから機械・器具の整備を含めた運営費と、そのようにやっていただいたらどうですやろね。
副町長	今、ご意見いただいた、もう1つ考えられるのは、運営費及び機械整備費とするかね、機械整備を含めた運営費、どっちやろ。自衛消防団の運営費及び機械整備費と。その方がわかりにくいですか。ちょっと休憩して、できたら。
委員長	休憩します。 (午前10時 5分 休憩) (午前10時16分 再開)
委員長	それでは再開いたします。 そうしましたら、委員さんの指摘のあった意見について、反映をしていただいて、次回の委員会で改めて資料として出していただくということで、お願いしておきます。 そうしましたら、次に、(2)斑鳩町協働のまちづくり指針について、理事者の報告を求めます。 黒崎総務課長。
総務課長	それでは、各課報告事項(2)の斑鳩町協働のまちづくり指針につい

て、ご報告申し上げます。

第4次総合計画の重点テーマである「参加と協働」を具体的に展開するため、平成24年の7月に斑鳩町協働のまちづくり推進委員会を設置し、協働のまちづくり条例及び指針の策定に向け、斑鳩らしい協働のしくみを検討してまいりました。

協働のまちづくり推進委員会では、町内のNPO・ボランティアグループ等住民活動組織と、協働のまちづくり懇談会やアンケートを実施するなど、住民活動の実態調査及び課題整理を行い、住民と行政による協働のまちづくりを推進するために必要な事項について、このたび、資料の3-1の斑鳩町協働のまちづくり指針（概要版）（案）として取りまとめたものであります。

この指針の概要版につきましては、9月の1日開催の斑鳩町協働のまちづくりフォーラムにおいて、参加住民に説明する予定となっており、今後は、フォーラムでのアンケートや、別途パブリックコメント等を実施して、住民の意見を踏まえ、指針本編の取りまとめを行ってまいりたいというふうに考えております。

それでは、資料の3-1でございますが、はじめようみんなが主役の新しいまちづくり、斑鳩町協働のまちづくり指針概要版の1ページをご覧ください。1として、なぜ今、協働のまちづくりなのでしょう。1ページでは、協働のまちづくりの必要性について記載しております。1ページ2行目の「協働」とは、住民、事業者、行政などがそれぞれの特性を生かしながら、対等な担い手として共通の目標に向かって協力し、ともに行動することです。

本町におきましても、少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、社会サービスに対する住民のニーズは多様化、高度化しており、従来の均一な公共サービスだけでは対応しきれなくなってきました。一方で、厳しい財政状況の中では、行政でできることには限界があるという現実もあります。

だれもが豊かで安心できる、生きがいのある暮らしを実現するためには、行政だけでなく、住民、NPO・ボランティア団体、事業者など多様な主体がともに協力して、多様な社会サービスを提供することによっ

て、多様な住民ニーズに対応することが求められております。特に、斑鳩町には独自の歴史・文化があり、これらを守り、次世代に引き継いでいくための取組みも求められております。

斑鳩町は、一人ひとりの住民の力を生かし、地域の力を高めて、住みよいまちにしていく「協働のまちづくり」の本格的な取組みをスタートさせます。

次に、2ページをご覧ください。2として、住民と行政の協働をすすめます。2ページでは、住民と行政が協働のまちづくりとして取り組む事業・活動のイメージ、協働のイメージとして、住民と行政の協働の形を記載しております。図でお示しをしておりますB、C、Dの3つのタイプがございます。

次に、住民と行政の協働の形につきましては、さまざまな形がありますので、①から⑦に掲げておりますように、一般的な形態を紹介しております。

次に、3ページをご覧ください。3といたしまして、住民・行政・それぞれの役割でございます。3ページでは、住民、NPO等住民活動団体、事業者及び行政のそれぞれの役割について記載をしております。

協働のまちづくりにあたっては、まちづくりの目標や目的を共有し、住民と行政のそれぞれがまちづくりの主役となって、それぞれの役割を認識しながら協力して取り組むことが求められております。

次に、4ページをご覧ください。4といたしまして、協働のまちづくりで大切にしたいこと。住民と行政がよきパートナーとして協働のまちづくりを進めるために、対等の関係、自主性・自立性の尊重、目的・目標の尊重、情報の共有と公開、相互理解の5つの協働の原則を尊重して取り組んでいきます。

次に、5ページをご覧ください。5として、応援します！協働のまちづくり（協働のまちづくり支援制度）でございます。5ページでは、協働のまちづくり支援制度として、（1）みんなが「ちょっとボランティア」キャンペーン、（2）いかるがボランティア・住民活動ネットの立ち上げ、（3）住民活動センター（ワーキングスペース）の設置、（4）多様な活動拠点の確保、（5）新しいチャレンジを応援する活動提案制

度の創設の5つの取組みを記載しております。この支援制度につきましては、NPO・ボランティア団体活動の現状を踏まえ、住民の活動を支援するための取組みを検討することといたしております。

次に、6ページをご覧ください。6. 協働のまちづくりを推進する体制。6ページでは、協働のまちづくりを推進する体制を記載しております。

(1) 協働のまちづくり推進委員会は、既に設置しております。協働のまちづくりの具体化に向けてのイメージを示しており、平成24年度は、NPO・ボランティア団体に、協働のまちづくりを進めるために必要な取組みについてや、どのような取組みに参加したいかなどのアンケートを行い、また、協働のまちづくり懇談会を開催して、現状や課題、ニーズを把握し、この指針や条例骨子案の検討に反映をしております。そしてまた、平成25年度の9月1日を予定しております協働のまちづくりフォーラムをもって、協働のまちづくり事業の立ち上げにつなげることを考えております。また、協働のまちづくり支援制度の一つを立ち上げるためのコア組織作りを検討をいたしております。

(2) の職員の協働のまちづくりチームにつきましては、協働のまちづくりを進めるにあたり、担当課だけではなく、役場全体の職員で協働について意識を共有して取り組んでいく必要があることから、職員の協働のまちづくりチームを立ち上げ、協働についての意識の醸成に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上、協働のまちづくり指針の概要版についてのご説明とさせていただきます。

続きまして、資料の3-2でございます。斑鳩町協働のまちづくりフォーラム～はじめようみんなが主役の新しいまちづくり～をご覧ください。

このフォーラムにつきましては、第1部として、斑鳩町でこれからすすめる協働のまちづくりをテーマに、斑鳩町協働のまちづくり推進委員会の委員長で立命館大学客員教授の高田昇氏から、協働のまちづくり指針の概要版(案)を基にご講演をいただき、その後、第2部として、協働のまちづくり「こんなまちになったら」「そのために私はこんなこと

がしたい」をテーマに、斑鳩町地球温暖化対策地域協議会会長の木崎典子氏、NPO法人ビハーラ紫苑理事長で協働のまちづくり推進委員の吉田尚子氏、そして小城町長をパネラーとして、高田昇委員長がコーディネーターとなるパネルディスカッションを予定をしております。

このフォーラムは、協働のまちづくりを進めるための第一歩であり、フォーラムで寄せられた意見等も踏まえて、協働のまちづくり指針を策定してまいりたいというふうに考えております。

以上、協働のまちづくり指針のご報告とさせていただきます。

委員長 報告が終わりましたので、何かお聞きになりたいことがあればお受けいたします。 小林委員。

小林委員 協働のまちづくりの委員会の皆様方の考えというのは、1日のまちづくりフォーラムのほうでわかると思うんですけども、ちょっと理事者側のほうに教えていただきたいのはですね、協働のまちづくり、地域の活性化、地域活動の推進についてなんですけれども、先ほどちょっと継続審査のほうで出てましたけれども、斑鳩の秋祭りのほうがなかなか文化庁の補助事業対象にはならないということでしたけれども、まちづくり条例、協働のまちづくり条例の中にはですね、先進地というか、進んでいるところにはですね、地域の活性化事業の中で、伝統文化の継承や活動を推進する補助対象みたいな項目もあるところもあるんですけども、そういう中で、なんかそういう秋祭りとかに対しても、金額はどうかかわりません、金額どうこうじゃなくて、そういう伝統行事、秋祭りに対しても補助金を出しているような地域があるのか、ちょっと知っていたら教えていただきたいなというふうに思います。

総務課長 今年度、住民懇談会としてですね、そういった団体との懇談会を行っております。その中で、小林委員がおっしゃっているような団体等についてはなかったというふうに認識をいたしております。

小林委員 平田さんがおられたので、ちょっとお聞きしようかなと思っていたん

ですけれども。この案の中で、住民の提案型活動提案制度の創設も書いてましたし、なかなかいい案かなと思うんですけれども、もう1つここにですね、私たちが何々したいというときにですね、やっぱり財政的な問題があるというふうに、1ページにも書いてますけれども、そういうときのために、協働のまちづくり条例の中にはですね、セットでそういうときのための基金を設ける条例もありますし、また、その基金を使うためにまちづくりのメンバーさんでどういう事業を採択するかとか、活発な地域活性化を目的とした、また、似たような、協働ですけれども、協働の中にいっぱい似たような条例もたくさんありますのでね、そういう条例をちょっとまた検討していただいて、伝統行事にも使えるような補助金の項目がつけれるのかどうか、検討していただきたいのと、もう1つがですね、今、言ったように、そういうボランティア基金じゃないですけれども、わかりやすいのが住民税の1%とかいう手段もあるみたいですが、そういうボランティア基金、新たに何かしたいときに、私たち自身、自分たちの、住民さんたちの資金によって何か新しくできるような制度もまた検討していただきたいなというふうに、要望だけさせていただきます。

委員長

池田副町長。

副町長

伝統的行事とおっしゃいました。先進地事例がありますわね。伝統的行事というのは、例えば各地域、昔から踊りありますわね。この地域でしたら、例えば葛城でしたら南無天踊りとか、古い踊りありますね。そういう具合とか、また、だいたいそういう、とか、音楽ですわね。古い音楽、伝統的な、地域で音楽やっておられますやんか。そういうものについては補助、NPOないしはそういう住民団体がその踊りとか歌を継承しておられると、そういう場合には出しておられます。例えば秋祭りがありますわね。例えばこれこれの秋祭りには補助出すとか。例えばもう一番大きいっていうたら祇園祭ですわ。あれは伝統行事。それには補助金出しているかといったら、補助金は出してない、どこともね。そういう、いわゆる、どう言ったらいいかな、神事、また社事とかになって

いる分には出してないけども、そういう踊りとかね、そういう分の伝統的なところには出しておられることはあると、そういう具合に理解をしていただきたいと思います。

それと、先ほどいろんな補助金、助成ですわね。ここで言っているのは、例えばいろんな提案あったらその活動費の何%なりを出しますよということやっていくことを考えております。例えば、今提案されております、奈良市と生駒市もありますわね。それについて例えば町財政の住民税の1%出すとか、そこまではちょっと今、考えておりませんが、それはこれから議論させていただく。どういう補助形態にするのかは、これからの議論になるということでご理解をいただきたいと思います。

小林委員 ふわっと柔らかく秋祭りというふうに言いましたけれども、例えば、具体的には各太鼓台とか、そういうところに対しても、まだ、今の段階では伝統ではないのかもしれませんが、これから何十年も続けていくために、各太鼓台、青年部さんなり、東部太鼓台なんか頑張っておりますのでね。今の時点では伝統じゃないかもしれませんが、将来のことを考えて、斑鳩町の伝統行事としていくのであれば、金額抜きにしてね、そういうふうに気持ちの面でも資金の面でも支援していく、斑鳩町が支援していくというのはどうかなというふうに思うんですけれども。

副町長 今、この場でそういう議論をされますと、非常に難しいシビアな問題があるんです。というのは、太鼓台、神事としてやっておられますでしょ。ですから、斑鳩町に限らずどの自治体でも太鼓台を修理とかする場合、これはもう500万、1千万かかります。これはもうその自治会でやはり寄付を集めてやっておられますし、極端な話、先ほどちょっと祇園祭出しましたが、あの祇園祭の中でも1台やっぱ10億する、今新規で考えておられるんですわ。これは何年も寄付集めて考えておられます。それを町の財政で援助するというのは、そらええこっちゃと、貰うほうはええかわかりませんが、全体的に考えたら非常に難しい面があ

るんで、そのことについて今やってくれと言われても非常に難しい面があるとしか言いようがございませんので、ちょっとそれはご勘弁願いたいと思います。

委員長 フォーラムを開いて、これから計画をまとめていこうというところの入口でありますんで、またいろいろ今後計画が固まっていく中でも、この具体的な議論については個々触れていただけるのかなと、まだ場はあると思いますんで。 小野委員。

小野委員 今、副町長、思わずというんかな、太鼓台は神事としてということやけど、ちょっとその言葉は私はあまり適当やないと思うんです。太鼓台は神事じゃないんです。太鼓台はね。当然、今、副町長おっしゃるように、地域で寄付金を集めたりして、地域で皆太鼓台作っている。神事で使っているのは、竜田神社の神輿が神事なんです。あの太鼓台は神事では一切ないです。せやから、所有者は竜田神社とか、法隆寺でも5基の太鼓台が動いてますけど、あれは神社のものでもなんでもない。だから、神事でもないし、お渡りに護衛に歩いているだけですからね。ちょっとそこら勘違いされたら困ることありますので。

副町長 例えば自身はそうですやんか。それであと、それをいろんな各地域で運行しておられますやんか。それは地域でコミュニティーのために運行しておられると、それはもう理解しておりますんで、太鼓台自身を、例えばそれを、そしたらそれは町で補助して買うものかどうかについては、とてもじゃないけど今のところは非常に難しいので、議論はちょっと今の所はちょっとご勘弁願いたいと、こう申しておりますんで、ちょっとご理解いただきたい。

委員長 他にございませんか。

(な し)

委員長	<p>そうしましたら、１０時５０分まで休憩いたします。</p> <p>(午前１０時 ３５分 休憩)</p> <p>(午前１０時 ５０分 再開)</p>
委員長	<p>それでは再開いたします。</p> <p>次に、(３)夏季一斉閉庁の結果について、理事者の報告を求めます。 黒崎総務課長。</p>
総務課長	<p>それでは、夏季一斉閉庁について、ご報告をいたします。</p> <p>夏季一斉閉庁につきましては、節電対策として、電力需要の急激な増加が見込まれる盆明けの８月１９日（月）及び８月２０日（火）の２日間実施をいたしました。特に、混乱や住民等からの苦情、トラブルなどはございませんでした。</p> <p>一斉閉庁につきましては、今回、初めての実施であり、転入・転出の受付、各種証明業務は通常どおり行うこととし、そしてまた、住民周知は十分行ったものの、閉庁を知らずに来庁される方や電話の対応に必要な待機職員の体制を各課において整えて実施をいたしました。</p> <p>閉庁期間中の来客・電話等の状況についてでございますが、通常の平日と比較いたしますと、住民課の各種証明発行業務を除いて、全般的に、来庁者数及び電話件数は少ない結果となり、住民皆様方のご理解とご協力をいただいたものであるというふうに考えております。</p> <p>また、使用電力の削減状況についてでございますが、役場本庁舎においては、１９日、２０日の２日間で、１，４８５キロワット時の使用電力量を削減することができております。</p> <p>なお、この削減効果は、昨年８月期の使用電力量の約３．１％に相当しております。</p> <p>以上、夏季一斉閉庁の結果についてのご報告とさせていただきます</p>
委員長	<p>報告が終わりましたので、何かお聞きになりたいことがあればお受けいたします。ございませんか。</p>

(な し)

委員長 そうしましたら、次に、（４）平成２６年度幼稚園入園申込状況について、理事者の報告を求めます。 山崎教育委員会総務課長。

教委総務 それでは、この８月５日から１６日にかけて、平成２６年度の幼稚園の入園申し込みを受け付けました状況について、ご報告を申し上げます。

まず、資料４をご覧くださいませでしょうか。

最初に、表の見方について若干ご説明申しあげます。表の左側に、本年７月１日現在の在園者数と学級数を記載いたしております。その右側の欄、平成２６年度入園者数で継続と記載しています欄の数字は、平成２５年度の園児の年齢欄の在園者数を一つ繰り上げて記載したものでございます。

次に、太枠で囲っている欄をご覧くださいませでしょうか。平成２６年度入園者数でございます。

斑鳩幼稚園及び斑鳩西幼稚園では、全ての学年において定員内に納まっております。

しかし、斑鳩東幼稚園の３歳児におきましては、４名の定員オーバーとなっておりますが、本年度と同様に、担任以外に補助教員を配置することで保育が可能であると判断し、抽選によることなく、申込者全員を受け入れてまいりたいと考えております。

申し込み状況の結果については、以上でございます。

委員長 報告が終わりましたので、何かお聞きになりたいことがあればお受けいたします。 中川委員。

中川委員 斑鳩幼稚園の３歳児、募集人数は４０で申し込みが４０というのは、これは、ちょうど偶然同じ人数になったということでええのかな。

教委総務 課長	お見込みのとおりでございます。
委員長	他にございませんか。 小林委員。
小林委員	<p>東幼稚園のほう年々児童数がふえていくということですが、東幼稚園がふえるということはまた東小学校のほうもふえていくということなんですけれども、斑鳩町の交通規制といいますか、もう昔からの場所に規制の看板立てたり、横断歩道があったりという状況ですのでね、こういうふうに新しく人口もふえてきた特定の場所だけって決まっていますので、そういう地域が将来的にどのように子ども達が通学するのか、予測していただいて、できましたらならば、実状にあった交通規制なり安全、安心に通学できる通路に変えていただきたいなというふうに、要望だけしておきます。</p>
委員長	<p>答弁よろしいですか。他にございませんか。</p> <p>(な し)</p>
委員長	そうしましたら、次に、（５）子ども模擬議会の結果について、理事者の報告を求めます。 山崎教育委員会総務課長。
教委総務 課長	<p>それでは、子ども模擬議会の結果についてご報告申し上げます。</p> <p>郷土に愛着を持ち、議会や行政に関心を持ってもらおうと毎年開催しております子ども模擬議会は、今年で１９回目となりました。</p> <p>本年の子ども模擬議会は、８月９日午前９時３０分から議場におきまして、町内の小学生の６年生９人と中学校の１年生９人、計１８人の児童・生徒が一日議員となり、未来の斑鳩町というテーマでまちづくりについての様々な質問をいたしました。</p> <p>一日議員からは、まちおこしイベント、パゴちゃんの有効活用、観光客の休憩所の設置及び河川清掃などについて、さまざまな角度から質問を行いました。</p>

参加した児童・生徒には、議会や行政の仕組みなどにより関心を持つ貴重な体験学習となりました。

また、一日議員としての体験を2学期に各学級で報告することで、自分たちのまちのために何ができるのかということを再度、みんなで学習する機会を持っていただくことをお願いいたしております。

最後になりましたが、議長におかれましては、大変お忙しい中、模擬議会前日の一日議員任命式及び模擬議会当日にご協力いただきましたことに改めてお礼を申し上げます。

以上、子ども模擬議会の結果についての報告とさせていただきます。

委員長

報告が終わりましたので、何かお聞きになりたいことがあればお受けいたします。ございませんか。

(な し)

委員長

そうしますと、他に理事者側のほうから報告しておくことはございませんか。黒崎総務課長。

総務課長

総務課のほうから2点、報告事項がございます。

1点目が、第1回斑鳩町地域公共交通会議についてでございます。

8月23日(金)に開催をいたしました第1回斑鳩町地域公共交通会議についてご報告をさしあげます。

斑鳩町地域公共交通会議につきましては、住民の日常生活の利便性を向上させ、斑鳩町に適した公共交通を検討するとともに、交通計画の作成・実施に係る連絡調整等を目的として設置するものであり、斑鳩町地域公共交通会議設置要綱を、平成25年4月1日に施行をいたしております。

第1回の交通会議では、平成25年度の事業計画及び予算が承認されたことから、今後、国及び県に対して補助金の交付申請を予定しております。

なお、本年度の交通会議の事業計画といたしましては、年度末を目途

に斑鳩町生活交通ネットワーク計画（案）を策定することとしており、策定にかかる業務委託につきましては、指名型プロポーザル方式により業者選定を行い、補助金の交付決定後に契約する予定となっております。

この業務委託については、斑鳩町生活交通ネットワーク計画を策定するために必要な、地域の現状把握や公共交通の利用状況の調査、住民アンケートによるニーズの調査や、課題整理等の作業を含めた業務委託となっており、その調査結果を踏まえて、交通会議で審議していただくとともに、総務常任委員会にもご報告、ご相談申し上げながら、計画（案）の策定を進めてまいりたいというふうに考えております。

2点目が、自主防災組織の設立の状況についてご報告さしあげたいと存じます。

斑鳩町におきましては、自治会等における自主防災組織設立及びその活動に対する負担を軽減し、積極的に自主防災組織を設立し活動していただけるよう、昨年10月から補助制度を実施しているところでありますが、今年8月現在、10の自治会において設立していただいております。そしてまた、5つの自治会が設立に向けて現在、準備をされております。

今後も、行政出前講座、広報紙、ホームページなどあらゆる機会を利用し、自主防災組織設立についての啓発に努めてまいりたいというふうに考えております。

総務課からは以上でございます。

委員長 他にございませんか。 面巻企画財政課長。

企画財政 企画財政課から、1点ご報告を申し上げます。

課長 平成25年住宅・土地統計調査の実施につきましてご報告をさせていただきます。

国では、本年10月1日を期日として、住宅・土地統計調査が実施されます。本調査は、5年毎に行われる調査で、住生活に関するさまざまな施策のための基礎資料を得ることを目的に、全国で約350万世帯、本町では約700世帯が無作為に抽出され、行われる調査となっております。

今回の調査にあたりましては、すでに8月15日の広報お知らせ版にて、ご協力をお願いを掲載させていただいているところですが、9月上旬から調査員が調査対象地域確認のため巡回し、調査対象地域にお住まいのすべての世帯に調査のお知らせを配布させていただきます。その中から調査対象に選ばれた世帯の方には、9月下旬に調査員が訪問し、調査票を配布・回収に伺う予定となっております。

なお、本調査は、インターネットによる回答も可能となっております。

以上で、平成25年住宅・土地統計調査の実施に関しましてのご報告とさせていただきます。

委員長

他に報告していただくことはございませんか。

(な し)

委員長

ただいま報告のありました事項について質疑、ご意見等があればお受けしたいと思います。ございませんか。

(な し)

委員長

そうしましたら、ないようですので、以上をもって各課報告事項については終わります。

続いて、4. その他について、各委員より何か質疑、ご意見等があればお受けいたしたいと思います。 小野委員。

小野委員

2点ほどちょっとお聞きします。

先ほど同僚委員がね、幼稚園の入園申し込みの時に要望されておりましたけど、いろいろな交通規制ということに関して、やっぱり実態にあったような弾力性を持っていろいろ点検してもらいたいということを要望されておりますが、以前、並松から東のほう、今、時間規制されているところ、以前はあそこに、東幼稚園ですか、があったので、道路幅も狭かったし、並松のところと同じように9時までの規制というのがあり

まして、現在もそれが残っている。そういうことの不具合さっていうんですか、それらについて、以前、この委員会ですかね、どっち側の委員会やったか、同僚委員から指摘があって、善処するようにということで、その回答というのがしっかり聞いてないんですけど、なんか当時の自治会長が、いや、困りますと、私が自治会長の間は困りますとか、そういうようなことで実現していないように聞いておりますが。その自治会長に聞いてもらうっていうことは、それはまあ結構なことやと思いますねんけどね。やはり全体の実状にあった交通規制ということを、先ほどの同僚委員も言ってますのでね、それは行政としてね、その規制をかけたことがなくなっている、そういう状態なんです。だから、やはり住民の生活を考えていったときに、やはりこれは規制をはずすように積極的に動いていくべきだと私は思うんですが、その点についてどうですか。

委員長

池田副町長。

副町長

以前、他の議員からご質問いただきました。その時に、あの規制につきまして、並松から、ここから向こうまでの一本で規制になっておるといふ具合にうちも調査しておりますねん。それははずそうと思って。例えば、あの時は県道大高から、県道天理斑鳩の間だったと思うんですよ、ご指摘あったのは。それについては一本で規制になってますよと。当初、一本で申請があって、一本で規制されてますよと。それを部分規制にするについて、うちの建設課のほうは、一応警察も協議に行ったんですけども、やはりそれするとなると、その時の自治会の合意も全部いりますよということで、今のところは難しいということに聞いておるんです。それについては報告は、質問者だけに行ったんですかね。今はそういう状況になっておるんですよ、難しいです。近隣の自治会の方もやはりこのまま規制残しておいてほしいという具合に言っておられる状況です。

委員長

担当がちょっと建設課のほうになるみたいなので、詳しい答弁がちょっと求められないかもしれませんが。 小野委員。

小野委員 そういうことで、そのまま置いてあるということなんですがね。やはりね、その規制をかけたときの状況とか、いろいろな状況から実状は変わっている。先ほどの同僚委員も言ってるけど、児童数も変わってきたりして、そこへ学校へ通学するとか、そういう状況がかわっていくねんから、それにあったようなね、ことを、弾力的にというか積極的にやっていくべきだと、私は思うんです。だから、町全体としてね、やはり、先ほどの補助金の問題もありますけどね、やはりもっと実状にあったようにやっていかなければ、前のままでっていうことになってきたら、小学校の通学路の問題なんかでもそうなんですよ。前のままで前のままで、そういうことでやっていくようでは、やはり実状にあった形を取り上げていくと、積極的に取り上げていくと、そういう姿勢を私はほしいんですが。それらについてはまた他の形で議論させてもらいたいなと思いますので。

それとね、先日の選挙で、期日前投票の宣誓書、それを入場券の裏面に記載して、投票者の利便性を図って、期日前の投票率を上げていこうということで、初めて施行されました。それについてね、どのような反響というか、結果があったのか、また、私は、割と細かいところに入れてあったから書きにくかったという印象があるんですが、それらについてももう少し改善する余地がないのかとか、そういうことをお伺いしたいんですが、どうですか。

委員長 黒崎選挙管理委員会書記。

選管書記 今回の参議院通常選挙から、期日前投票の入場券の裏面のほうに、自宅のほうで記入ができるように宣誓書のほうの印刷をいたしました。その結果、自宅のほうで書いて来れて、期日前投票所ですぐに投票ができるというふうなことで、利便性の向上につながっているというふうなご意見を頂戴もいたしております。

この裏面のほうに印刷をいたしております宣誓書のほうにつきましては、公職選挙法施行規則のほうに示されている様式をそのまま印刷のほうさしあげて、その中で必要事項として今回、日付と氏名と生年月日と

住所のほうを書いていただくということのほうで、お送りもさしあげたわけですが、日付と氏名のみを記入してですね、宣誓書ということでされている市町村もごございますことから、今後、更なる利便性の向上に向けまして、選挙管理委員会といたしましても、検討してまいりたいというふうに考えております。

小野委員 現住所を記載しなければいけないというようなことになっているのかな。今、課長が住所をということだね。住所が変わっておられる方、だけど、その入場券を送付されてきた、その人が来ている限りはね、何も現住所を記載する必要はなかったん違うかな。今は、そういう市町村もありますじゃなくてね、それが本来の姿違いますか。だから、そこらをもうちよっとしっかりとね、勉強してもらいたい。そのことによって、その枠がもう少し余裕のあるような、書きやすいような枠になるんやったら、そこらをしっかりと研究してもらいたい。住所を記載しなければいけないというような規定になってますか。

選管書記 施行規則のほうの様式をそのまま使っておりましてですね、その中では、住所、氏名、生年月日、日付ということの記載欄ございます。そういったことから、今回そのように記載を願ったわけですが、おっしゃいますように、入場券として送付されております裏面には住所等もございますので、宣誓書として、氏名の自書、投票される期日ということの必要最小限をもって検討していきたいというふうに考えております。

小野委員 くどいこと言うけどね、その様式をそのまま出してくるのと、公選法にこれだけは必要だということ書いてあるので、あとはこちらでつけられると。モデルでしょ、様式というのは。もう少し大きいところやったらそりゃ現住所も書いてもらったらよろしいですよ。名前だけ書いてもらうのではなくてね。だけど、それは現住所が変わっておられる方の時はそれを書くというようになっておるんです、公選法何条によってかね。だから、そのことをしっかり理解してもらったらね、もうちょっと考え

方も持って入れるのと違うかな。そのように思いますのでね。10月に町長選挙ありますので、次回にはそういうことをもう少し研究してね。近隣がなぜ現住所書く欄を省略してるのかという、その意味をね、しっかりと研究というか、聞いてもらえばすぐわかることです。そういうふうに工夫してもらいたいと思います。

それと、投票所も今回1箇所変更になりましたけど、それに対していろいろなトラブルがなかったのかだけ、お聞かせ願いたいと思います。

選管書記　今回の参議院の選挙から、投票所1箇所変更いたしましたけど、特にトラブルはございませんでした。

委員長　他にございませんか。　坂口委員。

坂口委員　8月の19日ですか、いかるがホールにおいて、飯島町との友好15周年記念の班中、南中、それから飯島中、あわせての吹奏楽の演奏会がありました。それで、聞きに行かさせていただいたんですけど、非常にいい演奏聞かせていただきました。特に、飯島町なんか、なかなか、すごいまいなというふうに感じました。ただ、ちょっと思うことがありまして。15周年というふうに、記念でうたっていた割には、お客様の数がちょっと少なかったのではないかなと。特に生徒さんが1人もおらなかったように思うんです。もう少し、せっかく飯島のほうから来られているんですから、もう少し宣伝をするなり、お客様を呼ぶ方法をされても良かったのではないかなと。8月の広報で1回見ましたけど、それ以外は見ていないような気がします。もう少し、せっかく来ていただいて、あれだけいい、3校合同の演奏なんていうのはめったにないことなんで、いいあれだったと思うんですけど、もう少し聞いていただけるようなお知らせをしていただきたかったかなと思うんです。

それと、こういう企画、3校合同のあれというのはめったにできないことなんで、今後もこういうことを続けていこうと思われているのかどうか、ちょっとその辺伺いたいと思います。

委員長

清水教育長。

教育長

今、当日のですね、聞きに来ている子どもが少なかった、まあ1人もいないということはないですけども、一定、来てたんですけども、確かに多いという状況ではなかったというのは確かでございます。そのことについては、各学校いろいろな活動の中で、クラブ活動等々といろいろございましてですね、特に運動部等々については、その当日ほかの試合と重なったり、いろいろそういった状況もあるものの、全体的に見ても少なかったのかと、私もそれは感じましたので、今後、斑鳩町でする場合は、そうしたことについても十分配慮しながら開催をできたらなというふうに考えております。

それと15周年という、ことしだけかというご質問でございます。あの後、いろいろ、生徒等々、学校の先生と話す中で、町長も来ていただく中で、ぜひこの機会に来年もしていこうじゃないかということで、来年度は当町から飯島のほうに行かせていただくという形でちょっと計画をしようというふうに考えております。以上です。

坂口委員

続けていくことはいいことだと思うんで、ぜひ今後とも1回だけやなしに、2回、3回と交互に友好をできるように続けていっていただきたいと思います。

それともう1点なんですけど、せっかく、パンフレットですね、せっかく作っていただいたんですけども、ただ単に曲目が紹介されているだけの薄っぺらい紙1枚だけいただいただけなんです。斑中、南中については多少、我々町民ですから、ある程度のことは知っているとは思いますが、飯島町の中学校の吹奏楽部については、なんら情報がないわけなんです。その情報というのが一切書かれてないんです、プロフィールとか。ただ単に何時からこの学校がこの曲目を演奏しますというふうな紹介だけだったんでね、もう少し学校の紹介なり、吹奏楽部の紹介とか、そういうプロフィール等を教えていただきたかったなと思います。以上です。

委員長 答弁よろしいですか。

坂口委員 はい。

委員長 他にございませんか。

(な し)

委員長 それでは、ないようですので、その他についても、これをもって終わります。

以上をもちまして、本日の審査案件については全て終了いたしました。なお、本日の委員会報告のまとめについては、例により正副委員長にご一任いただきたいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長 ありがとうございます。

それでは、閉会にあたり町長の挨拶をお受けいたします。 小城町長。

町 長 (町長挨拶)

委員長 それでは、これをもって、総務常任委員会を閉会いたします。
どうもお疲れさまでした。

(午前 11 時 20 分 閉会)